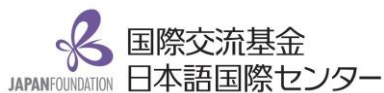


日本語教育と文化

Unit 1 準備 Part 2 文化とコミュニケーション



はじめに

みなさんは日本語の授業に文化を取り入れていますか？ それはなぜですか？

文化はコミュニケーションにどんな^{えいきょう}影響を与えているのでしょうか。

Part2 の目標

文化がコミュニケーションに与える^{えいきょう}影響について説明できる

1. 文化を日本語の授業に取り入れるのはなぜ？

みなさんは日本語の授業に文化を取り入れていますか。それはなぜですか。ちょっと考えて書いてみましょう。

日本語国際センターの研修に参加した世界の日本語の先生に意見を聞いてみたところ、次のような意見が出てきました。みなさんの意見と同じでしょうか。

- 文化は楽しいから
 - 文化に興味のある学習者が多いから、学習者のモチベーションがあがる！
- ことばと文化は切り離せないから
 - 例えば、敬語は、日本人の人間関係のとらえ方は作り方などの価値観。^{かちかん}
このように、ことばと文化は切り離せない。
- 文化を知ると、もっと深く理解できるから
 - 「話す」「書く」ときは自分の中にあることを伝えればいいけれど、「読む」「聞く」ときには、文化を知っているかどうかで理解の深さが変わると思う。

どれも大切なポイントですね。このパートでは、2つ目の「ことばと文化は切り離せない」に焦点^{しょうてん}を当てて、コミュニケーションと文化の関係を見ながら、文化を日本語の授業に取り入れる理由について考えていってみましょう。

2. コミュニケーションの視点から文化を考えよう

(1) ケースから考える

次の3つのケースでは何が問題だったのか、その理由を考えてみてください。

<ケース1:ものを借りる>

リサさんとアンさんはクラスメイトです。ペンを忘れたアンさんは、リサさんのペンを何も言わないで借りました。そのことに気づいたリサさんはとても怒っています。一方、アンさんは、どうしてリサさんが怒っているのかがわからなくて、困っています。

この二人の心の中をちょっとのぞいてみましょう。

リサ: ほかの人のものだから勝手に使うのは失礼。私は必ず「ちょっと貸して」「借りてもいい?」って言います。

アン: 家族や仲のいい友だちのものなら、何も言わずに借りて使います。もしも「貸して」って言ったら、いい友だちじゃないみたい。



この二人がどうして、こんな状態になってしまったのか、その理由がわかりましたか。

<ケース 2:感謝の気持ち>

次のような考え方の2人の関係は、この先どうなると思いますか。ちょっと考えてみましょう。

家族にも友達にも
ちゃんと言葉にして、
「ありがとう」って言います。

家族や友だちは、
助け合うことが当然。
「ありがとう」って言ったら、
すごく距離のある関係みたいに感じるから、
言いません。



<ケース 3:ビジネス場面で>

次は、日本人上司と英語を話す部下の間に起きた出来事です。



部下が上司に、ある^{ていあん}提案をしました。その^{ていあん}提案を聞いた上司は次のように答えました。

上司: That's difficult... (それは難しいですね...)

この返事を聞いた部下はどうしたでしょうか。今のプランじゃ難しいなら、修正してもう一度^{ていあん}提案しようと考え、プランをまとめてもう一度、上司に^{ていあん}提案しました。さて、この日本人の上司はどう感じたでしょうか。日本語を教えているみなさんなら、想像がつくかもしれません。この上司は、ダメってこの間言ったのになあと思いながら、次のように言ったのです。

上司: We'll think about it. (まあ、ちょっと考えよう)

さあ、この後はどうなったでしょうか。部下のほうは、「考えようってこの間言ってくれたのに、全然考えてくれない!」とイライラしています。上司のほうは「もしかしてあの人、ダメだって言ってるのに、まだあきらめてない!？」と、やはりイライラしています。

(2) 誤解^{ごかい}

ここまで 3 つのケースを見てきましたが、この 3 つのケースに共通しているのは誤解^{ごかい}です。では、なぜ誤解^{ごかい}が生まれるのでしょうか。

私たち人間は、ことばを聞いたり、行動を見たりしたときに、自分のこれまでの経験^{もと}を基^{もと}にして、理解^{かいしゃく}したり解釈^{かいしゃく}したりします。そして、その解釈^{かいしゃく}は無意識^{むいしき}に行われていることが多いです。これは、まさに文化の影響^{えいきょう}だといえますね。つまり、相手の背景^{はいけい}にある経験や文化をまったく知らない、それが原因^{げん}で誤解^{ごかい}やミスコミュニケーションが生まれる可能性があるのです。パート I で「文化の氷山モデル」を勉強しましたが、このような考え方や価値観^{かちかん}は目に見えないから、それが原因^{げん}で誤解^{ごかい}やミスコミュニケーションが生まれやすくなるのです。

では、誤解^{ごかい}を生まないために、日本の見えない文化を全て学ぶことができるのでしょうか。日本語を話すのは日本人だけではありません。日本語を話す世界中の人の見えない文化を知ることができるのでしょうか。それは、できないでしょう。知識として文化を学ぶことには、限界^{げんかい}があります。

<タスク>

あなたはこれまで、このようなコミュニケーション上の誤解を経験したことがありますか。
あるいは、このような誤解について、先生や友達などから話を聞いたことがありますか。

あなたの知っているケースを書いてください。そして、その誤解はなぜ起きたと思うか、その原因についても考えてみてください。

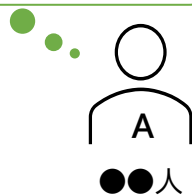
3. 知識として^{こていてき}固定的な「文化」を学ぶと…?

「日本人は時間を守る」「日本人は仕事が好きだ」「●●人は_____だ」

このような話を聞いたことがありますか。このような、それぞれの国や地域の^{かちかん}価値観、行動スタイルなどの^{たんじゅんか}単純化したイメージのことを「ステレオタイプ」と言います。知識として「日本人は～だ」のように、見えない文化、つまり考え方や行動を^{こていてき}固定的な知識として勉強すると、それが原因でいろいろな^{ごかい}誤解が生まれる可能性があります。

例えば次のような場合には、どうなるでしょうか。

日本人は時間を守るから、お知らせにはパーティーは3時からと書いてあるけど、たぶん始まるのは4時ぐらいだから、4時からって言おうかな。



●●人のパーティーはいつも遅れて始まるから、言われた時間の1時間後に行けばいいかな。



この2人は会えそうにありませんね。このように知識として文化を学び、ステレオタイプをもつことで、コミュニケーションに問題が生じることがあるわけです。そして、ステレオタイプにはネガティブなものもあります。ネガティブなステレオタイプは差別的な考え方や行動のきっかけにもなります。

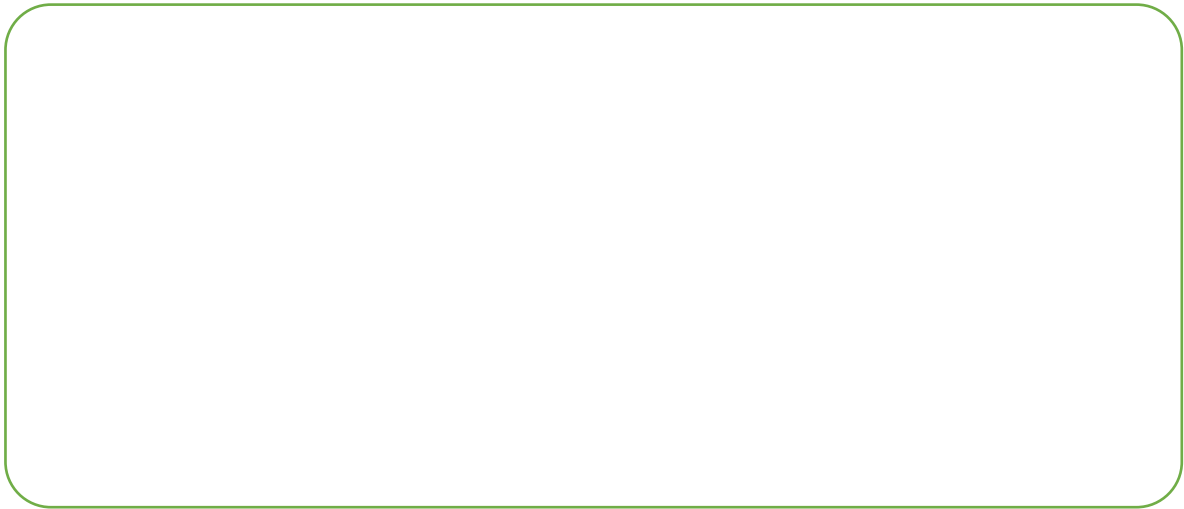
<タスク>

あなたは、ステレオタイプが原因で起きたミスコミュニケーションやトラブルの例を知っていますか。知っていたら、その例を書いてください。

4. まとめ

ここまで見てきたように「文化」は、私たちがコミュニケーションをしているとき、知らない間に影響^{えいきょう}を与えているものと言えます。このパートで学んだことをふり振り返りながら、文化がコミュニケーションにどんな影響^{えいきょう}を与えているか、自分のことばでまとめてみましょう。

このタスクができれば、このパートの目標は達成^{たっせい}です。



■ このパートの参考文献^{さんこうぶんけん}と参考サイト

- ・ 石井敏・久米照元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人(2013)『はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築に向けてー』有斐閣
- ・ 国際交流基金(2010)『日本事情・日本文化を教える』(国際交流基金 日本語教授法シリーズ7) ひつじ書房
- ・ Eagle, S., & Carter, J. (1998) Iceberg and islands: Metaphors and models in intercultural communication. 『異文化コミュニケーション研究』第10号、97-118. 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所